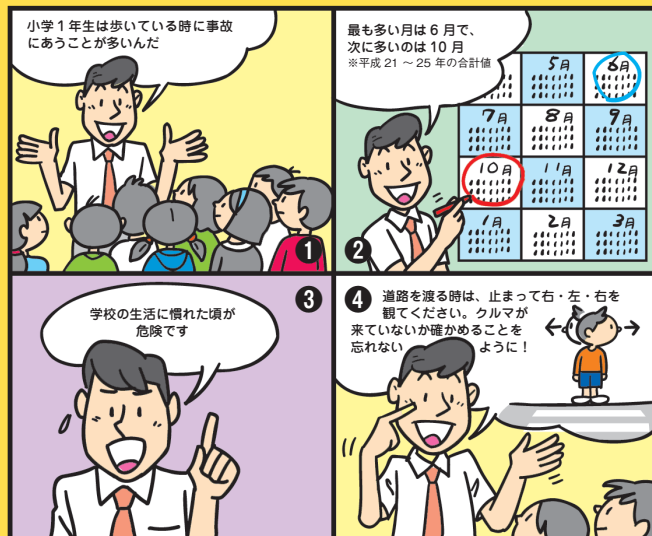


Q1 平成26年の小学生の交通事故死傷者数を状態別にみると、小学生の歩行中の死傷者数は何年生が最も多いでしょう？

- ①小学1年生
- ②小学2年生
- ③小学3年生
- ④小学4年生



Q2 小学校低学年(1～3年生)の歩行者の交通事故死傷者で、歩行者側の最も多い違反は「飛び出し」ですが、その割合は次のうちどれでしょう？

- ①約30%
- ②約50%
- ③約60%
- ④約70%

Q3 平成26年の幼児の交通事故死傷者数を状態別にみると、次のうちのどの状態が最も多いでしょう？

- ①歩行中
- ②自転車乗用中
- ③自動車乗車中

【使用上の注意】

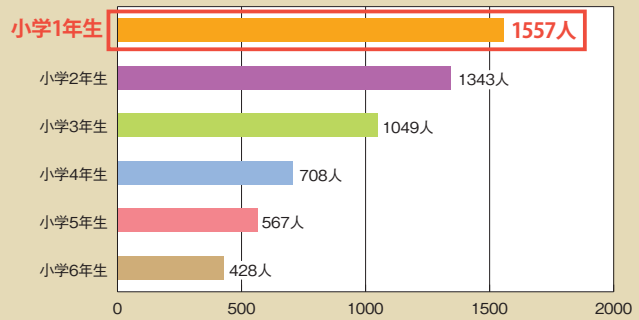
●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業(株) 安全運転普及本部 TEL:03(5412)1736

Q 1 解答 ①小学1年生

<解説>

小学生の歩行中の交通事故死傷者数を学年別にみると、小学1年生が1557人と最も多く、学年が上がるにつれて減少していく。小学校に入学すると、登下校など一人で歩く機会が増える。小学校入学前や入学直後には、保護者は子どもと一緒に通学路など普段利用する道路のどこに危険があるか、子どもの道路の渡り方や、安全確認の仕方なども確認し、事故にあわないようにするための適切なアドバイスをする必要がある。

●小学生の歩行中の交通事故死傷者数（平成26年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター資料

Q 2 解答 ③約60%

<解説>

小学生低学年（1～3年生）の歩行中の交通事故死傷者数を法令違反別（第1・第2当事者*）にみると、57.3%は子どもに何らかの違反がある。最も多い違反は「飛び出し」で59.9%を占めている。子どもは遊びなどに夢中になっていると安全確認を忘れてしまうことがある。こうした行動特性をふまえ、道路を横断する時は必ず止まってクルマやバイクなどが来ていないか、右・左・右をしっかりと観ることを習慣化させるための教育が重要である。

*第1当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者又は過失が同程度の場合は、被害が最も軽い者。第2当事者は過失がより軽いか、過失が同程度の場合は、被害がより大きい方の当事者。

出典：（公財）交通事故総合分析センター資料

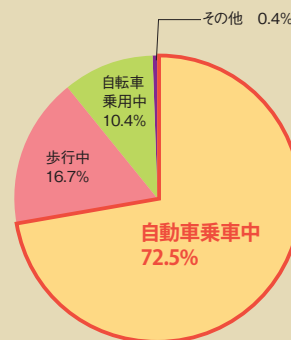
Q 3 解答 ③自動車乗車中

<解説>

幼児*の交通事故死傷者数を状態別にみると、自動車乗車中が最も多く72.5%を占めている。また、死者数の7割はチャイルドシート不使用であった。幼児をクルマに乗車させる時、保護者は必ずチャイルドシートを正しく使用しなければならない。万が一の事故の際、チャイルドシートを正しく使用していないと、強い衝撃により座席から身体が投げ出され、車内の構造物に激突するなど大きな被害になるケースもある。警察庁の資料によれば、チャイルドシート不使用者の死亡重傷率は使用者の2倍となっており、チャイルドシートの使用が事故の被害軽減に寄与していることがわかる。

*就園児および未就園児

●幼児の状態別・交通事故死傷者数（平成26年・構成率）



出典：（公財）交通事故総合分析センター資料

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03 (5412) 1736